

# 教育の状況



## 2-1 世帯員の学歴構成（対象地域の経年比較）

表 2-1 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上）の学歴構成を、生活実態調査における世帯員（15 歳以上）の学歴構成と併せて示したものである。

表 2-1 世帯員の学歴構成（対象地域の経年変化）

		総数	小学校・ 中学校	高校・ 旧制中学	短大・ 高専	大学・ 大学院	未就学	不明
H 12 調 査	男女計	7,384 (100.0%)	3,659 <b>49.6%</b>	2,383 <b>32.3%</b>	579 <b>7.8%</b>	296 <b>4.0%</b>	355 <b>4.8%</b>	112 <b>1.5%</b>
	男性	3,467 (100.0%)	1,712 <b>49.4%</b>	1,170 <b>33.7%</b>	207 <b>6.0%</b>	217 <b>6.3%</b>	106 <b>3.1%</b>	55 <b>1.6%</b>
	女性	3,917 (100.0%)	1,947 <b>49.7%</b>	1,213 <b>31.0%</b>	372 <b>9.5%</b>	79 <b>2.0%</b>	249 <b>6.4%</b>	57 <b>1.5%</b>
H 22 調 査	男女計	50,453 (100.0%)	17,419 <b>34.5%</b>	21,436 <b>42.5%</b>	4,545 <b>9.0%</b>	4,561 <b>9.0%</b>	342 <b>0.7%</b>	2,150 <b>4.3%</b>
	男性	24,000 (100.0%)	7,696 <b>32.1%</b>	10,467 <b>43.6%</b>	1,325 <b>5.5%</b>	3,193 <b>13.3%</b>	94 <b>0.4%</b>	1,225 <b>5.1%</b>
	女性	26,453 (100.0%)	9,723 <b>36.8%</b>	10,969 <b>41.5%</b>	3,220 <b>12.2%</b>	1,368 <b>5.2%</b>	248 <b>0.9%</b>	925 <b>3.5%</b>

### ○初等教育修了者等の状況

最終学歴が「小学校・中学校」である者の割合は、34.5%とH12年調査49.6%と比べて15ポイント程度低下している（男性：-17ポイント程度、女性：-13ポイント程度）。

また、「未就学」割合も0.7%と、H12年調査4.8%と比べて4ポイント程度低下している（男性：-3ポイント程度、女性：-6ポイント程度）。

### ○高等教育修了者の状況

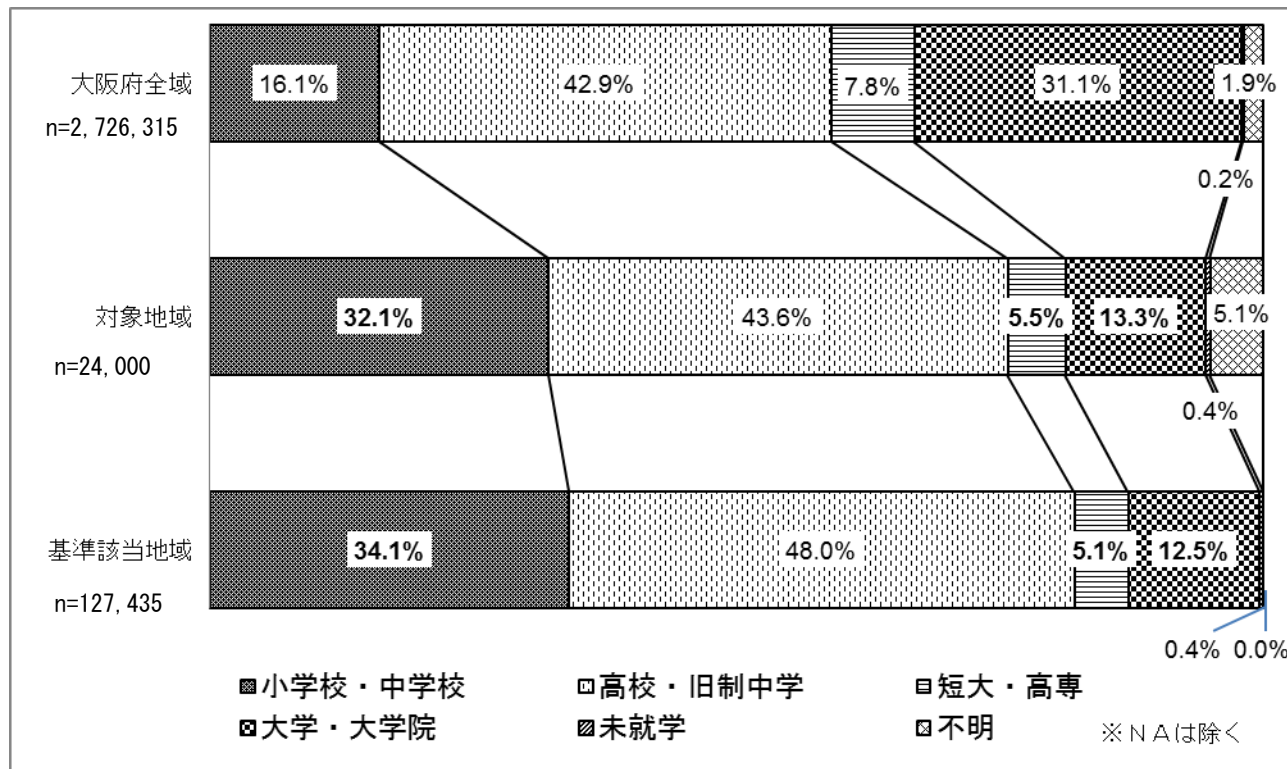
一方で、最終学歴が「短大・高専」である者の割合は、9.0%と、H12年調査7.8%と比べて1ポイント程度上昇している（男性：-1ポイント程度、女性：+3ポイント程度）。

「大学・大学院」割合も9.0%と、H12年調査4.0%と比べて5ポイント上昇しており、男女別では、男性+7ポイント、女性+3ポイント程度と、とりわけ男性の高学歴化が進行している。

## 2-1 世帯員の学歴構成（男性）

図 2-1-1 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上・男性）の学歴構成について、大阪府全域、対象地域、基準該当地域の結果を示したものである。

図 2-1-1 世帯員（15 歳以上・男性）の学歴構成比



### 1. 対象地域と大阪府全域との比較

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」の割合は、対象地域 32.1%と、大阪府全域 16.1%の約 2 倍の高さとなっている。
- ・最終学歴が「短大・高専卒」の割合は 5.5%と、大阪府全域 7.8%と比べて 2 ポイント程度低く、「大学・大学院卒」割合は 13.3%と、大阪府全域 31.1%の 2 分の 1 以下、18 ポイント程度低くなっている。

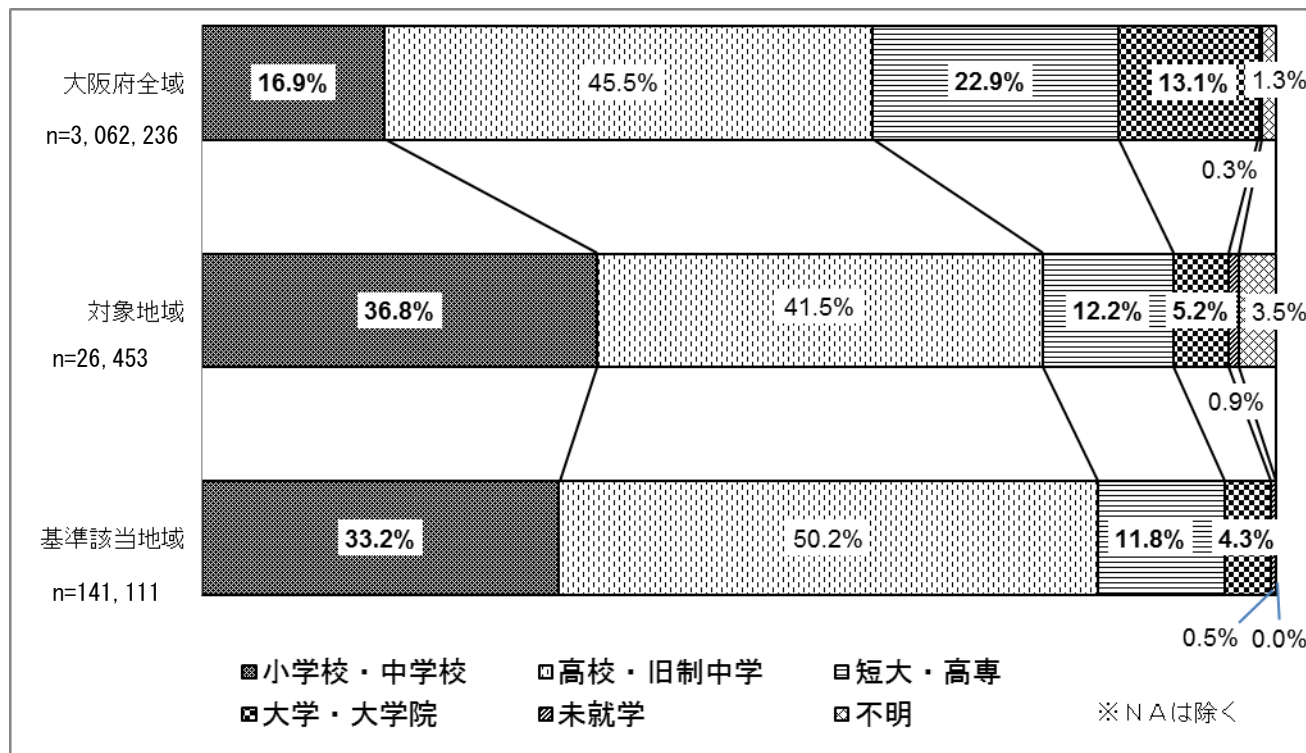
### 2. 基準該当地域の状況

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」は 34.1%、「短大・高専卒」及び「大学・大学院卒」は、それぞれ 5.1%及び 12.5%となっている。

## 2-1 世帯員の学歴構成（女性）

図 2-1-2 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上・女性）の学歴構成について、大阪府全域、対象地域、基準該当地域の結果を示したものである。

図 2-1-2 世帯員（15 歳以上・女性）の学歴構成比



### 1. 対象地域と大阪府全域との比較

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」の割合は 36.8%と、大阪府全域 16.9%と比べて 2 倍以上、20 ポイント程度高くなっている。
- ・最終学歴が「短大・高専卒」の割合は 12.2%と、大阪府全域 22.9%と比べて 10 ポイント程度低く、2 分の 1 程度である。「大学・大学院卒」の割合は 5.2%と、大阪府全域 13.1%と比べて 8 ポイント程度低く、2 分の 1 以下の割合である。

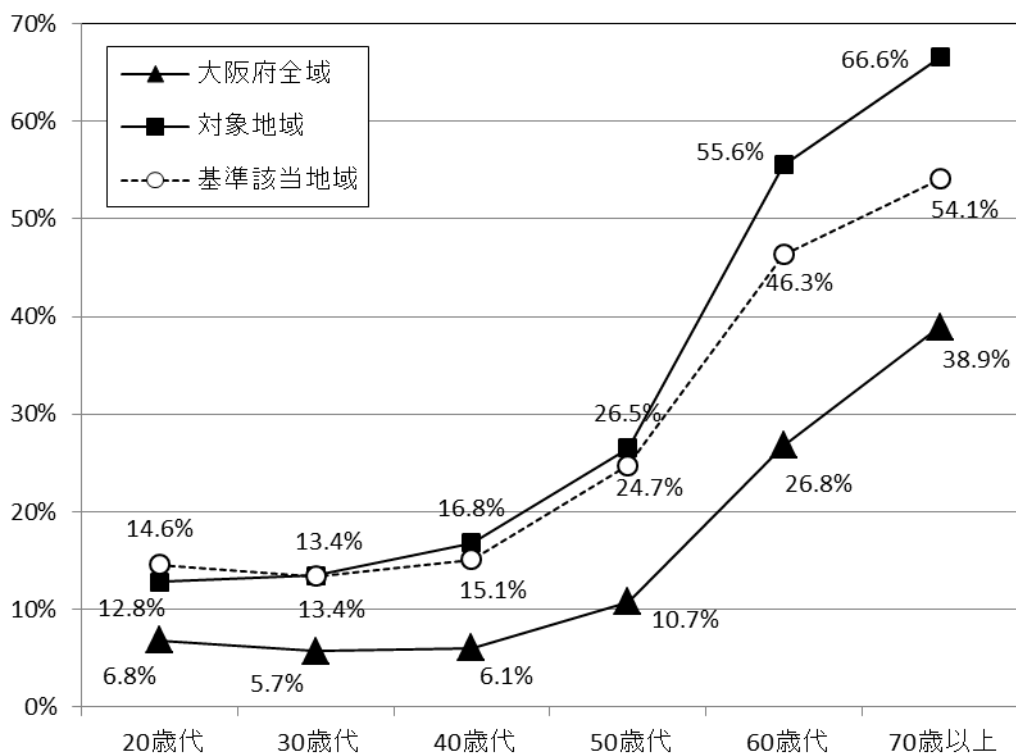
### 2. 基準該当地域の状況

- ・最終学歴が「小学校・中学校卒」の構成比は 33.2%、短大・高専卒及び大学・大学院卒の構成比は、それぞれ 11.8%及び 4.3%となっている。

## 2-1 世帯員の学歴構成（年齢階層別）

図 2-1-3 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上）の最終学歴が「中学卒以下」（未就学、小学校・中学校卒）である割合を年齢階層別に表したものである。

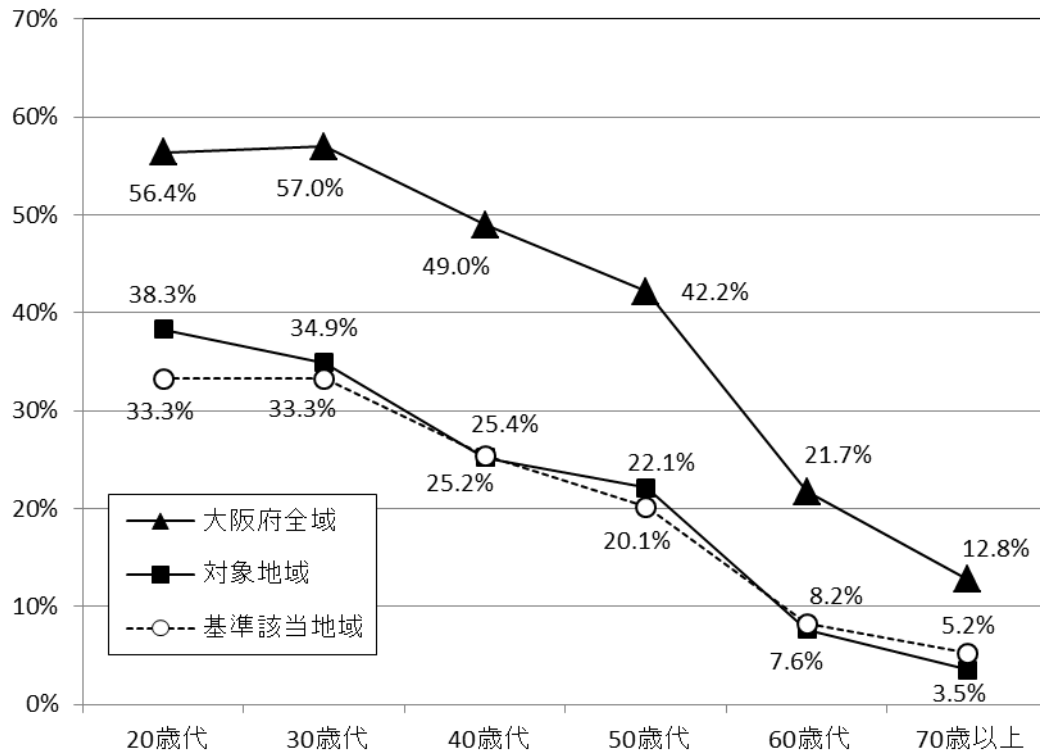
図 2-1-3 最終学歴「中学卒以下」（年齢階層別）割合



- ・ 対象地域における最終学歴が「中学卒以下」の割合は、70歳以上 66.6%、60歳代 55.6%、50歳代 26.5%、40歳代 16.8%、30歳代 13.4%、20歳代 12.8%と、若い年齢階層ほどその割合が低くなっている。
- ・ 大阪府全域と比べると、60歳代以上の年齢階層では30ポイント近くその割合が高くなっているが、若い年齢階層ではその差は縮まっている。しかし、20・30歳代でも6~8ポイント程度、2倍以上高い傾向が見られる。

図 2-1-4 は、今回の実態把握における在学中の者を除く世帯員（15 歳以上）の最終学歴が「高等教育修了者」（短大・高専卒、大学・大学院卒）である割合を年齢階層別に表したものである。

図 2-1-4 最終学歴「高等教育修了者」（年齢階層別）割合



- ・ 対象地域における最終学歴が「高等教育修了者」の割合は、70 歳以上 3.5%、60 歳代 7.6%、50 歳代 22.1%、40 歳代 25.2%、30 歳代 34.9%、20 歳代 38.3%となっており、若い世代ほどその割合が高い傾向が見られる。
- ・ しかし、いずれの年齢階層でも大阪府全域の割合を下回っており、30～50 歳代では 20～24 ポイント程度低くなっている。20 歳代では 18 ポイント程度とやや大阪府全域との差が縮小している。

